

# KGK

技術分野

小学校家庭

家庭分野

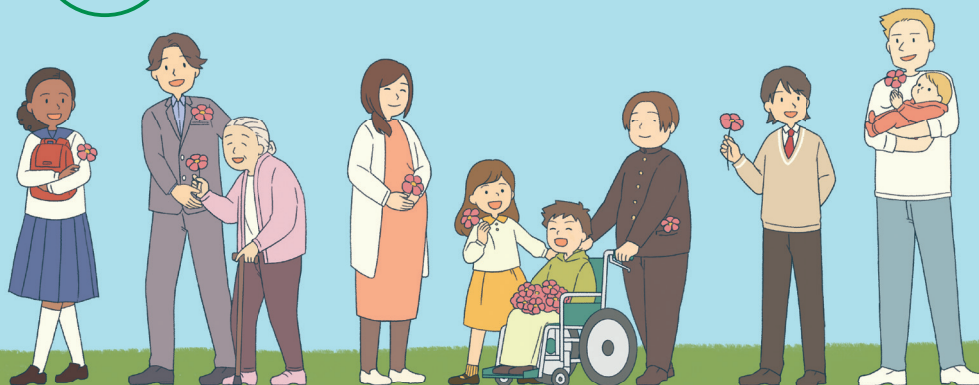
2023 / 通巻412号

Vol.58-3

# ジューナル

特集

## 多様性を尊重する教育



### Contents

教育点描	10年後になくなるべきブランド	Aki	.....2
多様性を尊重する教育 Q&A			.....3
特集	多様性を尊重する教育	半澤 嘉博	.....4
教育の目	<b>技</b> 技術分野で作り手として多様性に配慮する考え方と工夫	福谷 遼太	.....6
	<b>家</b> 生活変革者を育てる家庭科	森田 美佐	.....8
実践事例	<b>小家</b> パネルシアターで学ぶ家族の多様性	齋藤 麻由子	.....10
	<b>技</b> 生徒と教員 二つの視点から多様性の尊重について考える	森 剛徳	.....12
	<b>家</b> これまでの授業を「多様性」という視点でとらえ直してみる	寛 敏子	.....14
インフォメーション			.....16

QRコードから、冊子の詳細を見ることができます！



本資料は「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。











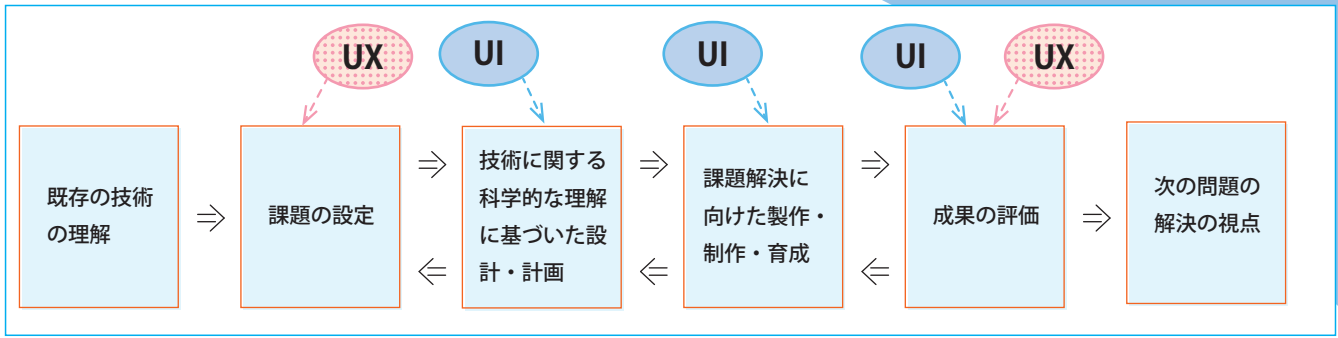


図1 技術分野の学習過程とUI / UX の関係 (例)

はUIを意識することになると考えられる。そして、評価・改善の場面では、UI/UX 両方の観点で検討していくことが望まれる (図1 参照)。

## 4

### アプリケーション開発を伴う授業で多様性に配慮させる工夫

アプリケーション開発を伴う授業の中で、生徒にアクセシビリティの観点を考慮させる場合は、例えば総務省がExcel ファイルで提供している「情報アクセシビリティ自己評価様式」(図2 参照) が役立つだろう。この評価様式では「色知覚なしでの使用」「発話能力なしでの使用」といった配慮すべき事項が一覧化されている。こうした観点を示すことで、さまざまなバックグラウンドをもつ利用者の存在に気づかせることができ、制作したアプリケーションについて生徒同士で評価させるような活動に展開することも考えられる。

また、この評価様式を作成するもととなっている JIS 等の規格が一覧化されたファイルも提供されている。このファイルでは、例えば「スクリーン又はディスプレイの一部分を強調する (又は拡大する) 機能が提供されることが望ましい」等、観点が具体的に記されている。中学生には難解な表現が多く、教員による意識が必要であるが、アクセシビリティを改善する方法を具体的にイメージすることに役立つと考えられる。さらに「規格」は技術分野の D 以外の内容で扱われるため、他の内容と関連づけつつ「私たちが普段何気なく使用している Web サイトやアプリケーションにもさまざまな配慮がなされている」というような、生徒にとっての新たな気づきにつながることも期待できる。

最後に、アプリケーションの開発現場では、アクセシビリティを含め Web サイトの良し悪しを評価し数値化するチェックツールが利用されることがある。例えば Google Chrome 用の無料の拡張機能「Lighthouse」

機能対象項目	評価結果	概要
視力なしでの使用 (全音)		
製品・サービスが視覚的な操作モードで提供される場合、視力を必要としない操作モードが用意されているか		
用られた視力での使用 (弱視、ロービジョン)		
製品・サービスが視覚的な操作モードで提供される場合、限られた視力で対応可能な操作モードが用意されているか		
色知覚なしでの使用		
製品・サービスが視覚的な操作モードで提供される場合、色知覚を必要としない操作モードが用意されているか		
聴力なしでの使用 (全ろう)		

図2 情報アクセシビリティ自己評価様式 (一部抜粋)

(Google 社) は、アクセシビリティを 100 点満点で評価した結果や、コード内の修正すべき箇所を示すツールである。Lighthouse は、開発者向けである上に英語表記のため中学生には難解であるが、アクセシビリティやユーザビリティを高めるために、実際の開発者がどのように Web サイトを修正・改善しているかを示す一例として参考になると考える。

参考：

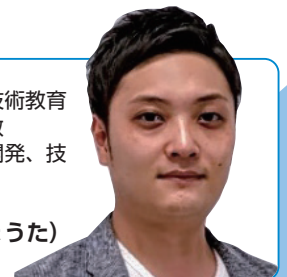
文部科学省「中学校学習指導要領解説技術・家庭編」開隆堂出版、2018

総務省：「情報アクセシビリティ自己評価様式」、[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/b\\_free/b\\_free02.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/b_free02.html)

Google「Lighthouse (chrome ウェブストア)」、<https://chrome.google.com/webstore/detail/lighthouse/blipmdconlknpinefehnmjammfjpmphbjk/related?hl=ja>

国立大学法人高知大学教育学部技術教育コース／科学技術教育コース助教  
専門は教育・学習支援システム開発、技術教育など。

福谷 遼太 (ふくたに りょうた)



◀ Web 版はこちらへ



密な間柄でも、暴力は許されない」

そこで学習者は、家庭科で身につけた目線（安心・安全・快適・平等）で改善策を提案し、家庭・地域・社会の仕組みを変えてきた。この点を教科として堂々と主張できる教科は家庭科以外にない。

だからこそ家庭科に携わる者は、児童・生徒一人ひとりがそのようなことができる力を持っていることを、授業を通してかれらに伝え、社会はあなたの体験と考えと行動で変わるのだと、絶えず語り続ける義務と責任があるだろう。

### ○生活体験を基に社会をアップデート

すべての人が安心して暮らせる社会の実現のために、家庭科ができることは沢山ある。例えば日常生活に潜む「無意識の偏見」をなくすことである。「男は仕事って誰が決めた?」「家事・ケアは女の仕事? みんなの仕事だよ。」(図2)



図2 無意識の偏見 (市川房枝記念会、2023より)

こんな話し合いもできるはずだ。「社会には、赤ちゃんも高齢者も、障がいのある人も、外国から来た人もいるね」「みんなそれぞれの暮らしや考え方があるね」「それぞれ、いろんな困りごとを抱えているよ」「そういうことをわかって、みんなの声を社会に届けてる人ってどんな人?」「どんな人だったっけ?」「いろんな人、いたっけなあ…」

## 3

### 生活変革者を育てる

今話題の AI は、どうすればよりよい社会になる

か、聞けば答えてくれる。しかし AI には大切な誰かを想ってご飯を作った経験もなければ、放っておけない大事な人の相談に、自分事としてのった経験もない。そんな AI と、家庭科をきちんと学んだ児童・生徒が描く社会が同じはずがない。

私たちは家庭科を学べば生活することの大切さ、面白さ、奥深さが分かる（もちろん大変さもある）。

しかし私たちが、大切さ、面白さ、奥深さを感じながら生活するためにはある程度の時間的、精神的、経済的な余裕も必要である。もしも現代社会が、そのような余裕を私たちに与えず、その余裕のなさを自己責任だと宣うならば、家庭科はそんな社会に NO（持続不可能）を突きつけよう。

共通テストに出題されなくても、主要教科でなくても、それがどうした。家庭科に携わる我々は、多様な人々の生き方を学び、生活の実体験を通して個人・家庭生活の意義と価値を理解し、誰もの尊厳を守る社会に向けて共創の挑戦をやめない生活変革者を育てているのである。



高知大学教育学部附属特別支援学校での出前授業

<引用・参考文献>

- ・上野千鶴子・田房永子「上野先生、フェミニズムについてゼロから教えて下さい!」大和書房、2020
- ・公益財団法人 市川房枝記念会 女性と政治センター「すしPリーフレット」<https://www.ichikawa-fusae.or.jp/suship/>
- ※「すしP」は、市川房枝記念会にて無料配布中（2023年7月現在）

国立大学法人高知大学教育学部教授。  
博士（生活環境学）。高知大学教育学部附属特別支援学校の家庭科の先生方とジェンダーの共同授業も行う。

森田 美佐 (もりた みさ)



◀ Web版はこちらへ

# パネルシアターで学ぶ 家族の多様性

東京都杉並区立  
桃井第四小学校主任教諭  
齋藤 麻由子  
(さいとう まゆこ)

## 1 はじめに<sup>1)</sup>

多様性（ダイバーシティ／diversity）とは「ある集団の中に異なる特徴・特性を持つ人がともに存在すること」です。ダイバーシティという言葉は、人種や国籍、性別、年齢、障がいの有無、宗教、性的指向、価値観などの多様性から、キャリアや経験、職歴、働き方といった職業生活における多様性まで幅広いジャンルで用いられています。

多様性には「表層的」「深層的」の2つの種類があり、外見で見分けられる生得的な特徴は「表層的ダイバーシティ」、外見からはわかりづらい内面的な特徴は「深層的ダイバーシティ」と呼ばれます。表層的ダイバーシティは「人種」「国籍」「性別」「年齢」など、深層的ダイバーシティは「経験」「スキル」「価値観」「文化的背景」などが具体例として挙げられます。

## 2 教師が「多様性に配慮した指導をする」

開隆堂の教科書では、子どもの認知特性の違いや特別支援教育の観点などから、だれもが理解しやすいような配慮や工夫が随所になされています（[https://www.kairyudo.co.jp/contents/01\\_sho/2020/katei/pdf/shoka\\_tokushi.pdf](https://www.kairyudo.co.jp/contents/01_sho/2020/katei/pdf/shoka_tokushi.pdf)）。

外国人等の児童に配慮すべき点についても詳しく記載されています<sup>2)3)4)</sup>。

調理実習では、外国の食文化や左利きの児童にも配慮した実習のあり方<sup>5)</sup>、色弱の児童に配慮した教材の示し方（黄色を重ねない）、食物アレルギーをもつ児童への対応とアレルギーへの理解<sup>6)</sup>を促進する学びの場の提供などが挙げられます。

## 3 子供たちが「多様性に気付く」

5年生最初の題材「家族の生活再発見」ではガイ

ダンスの意味合いや、自分の生活を見つめ直し、自分を支える家族にも目を向けることになります。そして今まで自分の家族のことしか見えていなかった児童がいろいろな家族形態があるのだという「多様性」に初めて気付く題材です。よく、サザエさん一家などで紹介されていますが、ここではパネルシアターで作成したものを紹介します。仕事には、お金を稼ぐ仕事のほかに家族の生活を支える家での仕事があることを、教科書のページから家庭にはどんな仕事があるかを考えさせます。その家庭の仕事は誰が行っているかあえて考えさせ、パネルシアターで展開します。パネルシアターはその都度家族構成をつれたり外したりでき、泣いているお母さんを裏返すとニコニコしてる場面が変わり、視覚的に多様な家族について考えることができます。そして6年生の最後の題材「持続可能な社会を生きる」につながります。単に「近所の人との暮らし方」ではなく、今の自分の生活は自分のものだけでなく、周りの生活とつながっていること、性別、年齢、国籍などが多様な人々が生活する中で、みんなが喜ぶ、みんなに役立つ、みんなが気持ちよく生活できるためのルールやマナー、関わりのもち方、協力の仕方を学ぶこと、は遠い世界にもつながっている「多様性」の気付きにつながります。



〈引用・参考文献〉

- 1) ミライイ HP、<https://www.hrpro.co.jp/miraii/post-909/>
- 2) 「学習指導書 指導展開編（上下巻）」 p80-85
- 3) 「指導者用デジタル教科書DVD-ROM編」収録「外国籍児童学習支援」
- 4) 2020年度小学校家庭科教科書のご案内、[kairyudo.co.jp](http://kairyudo.co.jp)
- 5) 「わたしたちの家庭科5・6」 p132・133
- 6) 「学習指導書 入門編」 p52・53

1

T: あら、こんなところにおうちがある、チャイムならしてみよう



C: なんだなんだ!

2

T: ピンポン、  
T: はい、私、ももこ5年生よ。



C: 同じ学年じゃん!

3

T: 私の家族を紹介するね。  
私は3人兄弟なの。



C: 僕と同じだ!

C: 私は一人っ子!

4

T: おじいちゃんとおばあちゃんも一緒です。



C: 私もおばあちゃんと住んでる。

C: 僕のうちと違う。

5

T: 最後に私のお父さんとお母さんよ。  
お母さんはアメリカ人なの!



T: なぜお母さんは泣いてるのでしょうか?

C: お母さん外国人なんだ!

C: 家の仕事をほとんどやっていて誰も手伝ってくれないからだ!

C: お母さんが大変だからお手伝いしなくっちゃ。

C: ○○さんと同じだ!

C: なんでお母さん泣いてるんだ?

C: 私はけっこう手伝っているよ。

C: うちはおばあちゃんがほとんどしてる。

T: ももこさんの家は7人家族でしたが、家族構成は色々ですね。日本では核家族と言ってお父さんお母さんと子供、という家族構成が増えています。また、訳があってお父さんやお母さんがいない家庭もあります。このように家族の形はさまざまです。また仕事も外に働きに出ていたり、家でテレワークしていた

り、お店をやっていたりとさまざまです。ももこさんちはお母さんが主に家の仕事をしていましたが、これも決まっているわけではありません。家族の一員として家の仕事ができるよう家庭科を学んでいきましょう。



◀ Web版はこちらへ

# 生徒と教員 二つの視点から 多様性の尊重について考える

東京都江戸川区立  
瑞江第二中学校教諭

森 剛徳  
(もり たけのり)

## 1 はじめに

多様性を尊重する教育のテーマについては二つの視点があると考えます。

**視点①** 生徒が技術の授業を通して多様性を尊重する姿勢を身につける

**視点②** 教員が生徒に対して授業において多様性を尊重する

その上で私が取り組んでいる実践例を紹介する。

## 2 実践例【「A材料と加工の技術」で】

本校では生徒の保護者や兄弟・姉妹などの意見も取り入れた設計・作品づくりを行っている。その過程の一つにある「生徒と保護者とのグループワーク場面の設定」が視点①にあたる。

開隆堂教科書 P.44 以下の問題解決の流れが基本だが、構想や設計の段階で夏休みを挟んで、保護者（家族）と一緒に家の中の収納等に関する問題を発見してもらい、保護者（家族）の意見や要望を取り入れた問題解決が図れる作品を設計（※1）させている。

保護者（家族）とともに問題を発見し、問題を解決するための製作品を考えることで、例えば同じ本立てでも「自分」にとって使いやすい形状や大きさと「おじいちゃん、おばあちゃん」にとって使いやすい形状や大きさでは異なることに気づくだろう。

また、「誰にとって問題なのか」を明確にし、「誰が使用するのか」を考えて製作品を設計することが大切であることに気づくはずである。

上記のような生徒と保護者（家族）のグループワークを実施することにより、多様性を尊重する姿勢を身につけさせる一助としている。

授業を進めるうえで視点②にあたるのが「多様な資料や工具等の用意」「個に応じた題材（課題）の設定」の2点だ。

問題解決では、各自が問題を見つけ解決する設計をするため、使用する工具は生徒ごとに異なる。生徒の設計を製作品として実現させるには、さまざまな工具等を準備しておくことが大切だ。

また、自力での設計が難しい生徒への対応も必要だろう。事前に全生徒に複数のお手本設計図を配布し、どうしても設計が難しいと本人が判断した場合は「そのまま写してくるだけでもよい」としている。

難易度の高いことに取り組むことが難しい生徒がいても、個々の生徒に合わせた難易度で学習を進めていけばよいと考えている。教師は効率的な授業を行うために、多様な生徒を同一のレベルに合わせようとしてしまうことがある。もちろんそれも実際には必要であるのだが、個々の生徒の力を伸長することを第一とした場面を意識的に作ることも大切にしたい。

※1 保護者（家族）とともに考えることによって、生徒だけでなく、家族も完成を楽しみにしてくれる。家庭でも作品作りの進捗状況等を話題にしてもらうことで生徒のモチベーションの向上にもつながっている。

## 3 実践例【他教科や特別活動等の取り組みを技術の授業で話題にする】

教科を越えた取り組みの中にも視点を当てはめることができる。例えば、本校で推進しているLGBTQ等に関する教育に関連して、視点②として「トレードオフの関係やプラス面、マイナス面を考える場面を設ける」ことを実践している。

本校では、制服に「男子用」「女子用」を定めないほか、出席簿や教室の班、体育も男子、女子を分けていない。その延長で「男子のイメージカラーは青、女子のイメージカラーは赤ということもやめよう」ということになり、トイレの表示も赤や青ではなく「黒」に統一した。

このことについて、技術の授業でトレードオフの説明をする際に次のように問いかけを行った。「LGBTQの観点からは黒に統一したことはよかつ

た。でも、視力の低い生徒にとってはどうなのかな」  
 また、計測と制御の授業の導入部分では特別活動で扱った点字ブロックを引き合いに出し、生徒に次のように投げかけた。

**教師** 黄色い点字ブロック、景観的にはどう思う？

場所にもよるけどあまりよくないかも

目立たない点字ブロックがあればいいのに

**教師** 景観に配慮した目立たない色の点字ブロックもあるよ。でも何か問題点はない？

視覚障がい者（全盲以外）にとって見づらいかも

目立たない分、凹凸をはっきりさせれば（高低差を大きくすれば）わかりやすくなるかも

凹凸の深い点字ブロックがあればいい

**教師** 小さな子供や足の悪い人、車いすの人にとってはどうかな？（生徒に揺さぶりをかける）

足が引っかかって危ないかも

**教師** 計測と制御の技術で解決できる方法はないかな？

このようなことを考えさせると、ブロックだけにこだわらず、「GPS を利用した道案内ロボットがあればいい！」など全く新しい発想が出てきた。様々な立場や状況の人がいることに気づかせ、配慮させながら、計測と制御の技術が、人々の多様性を尊重するためにも役立つことを伝えることができた。

## 4 実践例【グループ学習 声かけシートの活用】

視点①の実践として「生徒どうしのグループワークの活性化」を目的に、声かけシートを活用している。A 材料と加工の技術の例でも取り上げたが、他者と対話しながら課題を解決する活動は、様々な考え方に触れるチャンスだ。多様性を尊重する姿勢を身につける上で、「多くの考え方に触れながら、課題を解決することを繰り返す」ことが有効である。

しかし、そのような活動は時間がかかる上に、子供たちがそのような経験が少ない場合、話し合いなどの活動がなかなかスタートしないことが多いのではないだろうか。また、特別教室で行う授業においては、教室での班（グループ）と異なるために、グ

技術科 バイコン室 グループ学習 声かけシート

**自分の周りの友達と意見を出し合い議論を深めよう。**  
**出てほしい声かけ**  
 「ここ、どうやるの？」  
 「それ、どこに書いてあったの？」  
 「～さんは、なんで書いたの？」  
 「～さんは、なんでそう考えたの？」（ここがポイント）  
 「あ、そういうことか」「なるほど」

**全員同じ考えや答えになった場合にでてほしい声かけ**  
 「本当に正しいか、みんなで確認しよう！」  
 「他にも、考えがないかみんなでアイデアを出そう！」

**全員分らない場合にでてほしい声かけ**  
 「教科書やノートを見てみよう。ヒントがあるかも」  
 「目的からさかのぼって考えてみよう」  
 「資料（図鑑）を探してみよう」  
 「どこでつまづいているか整理しよう！」  
 「先生！～でつまづいています！助けてください！」

こまづいてる子が「何につまづいているのか」理解し、助けよう！  
 その時は、いきなり答えを教えるのではなく、ヒントを出してあげよう！

図1 グループ学習 声かけシート

ループ活動が軌道に乗るまで時間がかかることがある。そこで、「グループ学習 声かけシート」を活用している（図1 参照）。このシート自体は「深い学び」に直結するものではないが、話し合いなどが軌道に乗るまでの時間短縮に役立っている。

## 5 まとめ

技術分野の授業で、多様性を尊重し育むために私が意識していることを整理すると次のようになる。

- ①課題の解決策について、多面的に検討するグループワークの促進
  - ②個に応じた題材（課題）の設定
  - ③多様な資料や工具等の準備
  - ④教科・領域等横断的なカリキュラムマネジメント
- 以上である。現場では常に様々な「〇〇教育」が求められる。教科の本質を大切にして、無理なく授業に取り入れていくことが肝要である。



生徒作品



◀ Web 版はこちらへ

# これまでの授業を「多様性」という視点でとらえ直してみる

東京都国分寺市立  
第二中学校教員  
**筧 敏子**  
(かけひ としこ)

## 1 はじめに

本稿を書くにあたり、特集テーマである「多様性」を、私自身はどのように考えて家庭科の授業をしてきたのだろうか悩んだ。「多様性」といっても、その内容は広く、深い。自身の力量不足もあり、「家庭科の授業においては、これとこれです。」というものを持ち合わせていない。そこで、私の中のおぼろげな「多様性」のイメージと共に、教科書（開隆堂、家庭 703）の目次を改めて見てみた。

すると、「多様」という文言が入っている項目があった。「多様な人びとが暮らす地域（p58）」、「多様な人びとと共に生きる（p280）」というのを見つけた。しかし、それ以外にも、私の中の「多様性」のイメージと合うものが、たくさんあった。表紙をめくるとすぐに、5枚の写真（下図）がある。そこからは、世代（高齢者や幼児）、人種や民族、ジェンダー、障がいの有無、家族の形などに関する多様性が読み取れる。これらの視点をもとに、これまでの授業の一部を、とらえ直しながら事例紹介をしてみたい。



教科書掲載の5枚の写真

## 2 実践事例

### 事例1：地域に暮らす高齢者（中学3年生）

高齢者の学習のひとつとして、認知症サポーター

養成講座を行っている。地域包括センターと連携し、認知症サポーターキャラバンの方に来校していただいた。

認知症についての理解を深めるとともに、地域に暮らす高齢者とのかかわりについてリアルに学んだ。キャラバンのメンバーに高齢の市民も参加していたので、生徒は様々な高齢者がいることにも気づいた。地域には、多様な高齢者がいて、世代によっても多様な暮らし方やかかわり方があることを知るきっかけになり、「多様性」を理解することにつながっていくと考えられる。



養成講座写真①：寸劇のひとつ

#### 認知症サポーター養成講座の生徒の感想より

- ・ 認知症にもステップがあり、行動一つ一つにもいろいろな原因があって、家族の対応の仕方によっても、症状が加速してしまうことを知れた。
- ・ 認知症の方に寄り添って、支え合って、対等な関係を築いていくことで、認知症の方の不安をかき消せて、安心して生活してもらえるのかなと思いました。
- ・ 祖母が近くに居るんですけど、もっと外に連れてったりして、予防したいです。
- ・ 「明日の記憶」という本を読んだことがあるが、認知症の人の気持ちを考えること、本人の感じる不安や罪悪感というものを今日の授業でも、その本でも感じた。本人がどう考えているのかをしっかりと理解して対応したいと思った。



養成講座写真②：個別の質問にも丁寧に答えるスタッフ

## 事例 2：誰もが住みやすい環境（中学 2 年生）

住生活の学習の終わりの方で、安全対策や災害への備えについてのレポートに取り組んだ。それには、安全対策が必要な幼児・高齢者・障がいのある人の特徴を理解する必要がある。一つの手段として、視覚障がい疑似体験用のゴーグルを使ったり、白杖体験を取り入れたりした。白杖体験は、地域の NPO 法人の方に動画を作成していただいた。

動画視聴後、白杖体験を行った。視覚障がいと言っても、同じように見えにくい（または見えない）のではなく、様々な状況があることに生徒たちは、気づいていた。疑似体験ではあるが、自分の感覚や声のかけ方などから、相手の人に合わせた対応をすることを学んでいた。これも、「多様性」を理解し尊重することにつながっていくのだと感じた。

### 白杖体験の生徒の感想より

- ・今回は知っている場所を歩きましたが、知らない道だったら、もっと難しいと思います。ガイドヘルプもどうやったら歩きやすいかなど、すごい気を使いました。安心して歩けるように心がけました。
- ・白く濁っているだけでも、かなり見えにくいことが分かりました。動画を見て、白杖を使っている人のこともよくわかりました。
- ・見えない体験より、ガイドヘルプの方が難しかった。今まで、目の見えない人を見かけても、驚かせてしまうかと遠慮していたが、これからは困っている人がいたら、声をかけようと思った。
- ・段差がとても難しい。スロープの役割が重要だと気づいた。介助の人がいないと、とっても移動が怖い。声をかけてもらうのが重要だ。

安全対策や災害への備えについてのレポートは、住まいの中だけでなく、地域でよく利用する場所や、



白杖体験動画のひとつ

職場体験先にも調査対象を広げた。実際に工夫されている点が具体的に書かれているレポートが多かったし、多様な人びとが利用する地域に目を向けることもできた。（安全対策のレポート：WEB 版に掲載）

## 3 おわりに

本稿で紹介した事例は、必ずしも「多様性」そのものを題材にしたものではない。多様な家族の暮らし方や、世界の食べ物・衣服・住まいに見られる多様な生活文化、ジェンダーなどについての事例ならば、読者の方々に伝わりやすかったかもしれない。しかし、悩みながらも、次のように考えることができた。

家庭科は、「多様性」にあふれている実際の生活を学習対象としている。それゆえに、どの内容を扱うにしても、「多様性」の理解と尊重に向き合うことになる。また、現行の教科書にあるように、わたしの興味・関心から学習に入ろうとすることは、一人一人の考え方を大切にすること、言い換えれば「多様性」の尊重につながるのだといえる。こうしてみると、家庭科の学習は「多様性」の畑であると言ってもよく、その畑の作物が十分に生育するように「多様性」の理解と尊重ができるような授業を作りたいと思う。

### <参考文献>

- ・ KGK ジャーナル 411 号「個人の発想を大切に、多様性を育む授業づくり」小林美礼
- ・ 文部科学省「2030 年の社会と子供たちの未来」
- ・ ビズクロ「ダイバーシティ教育とは？子供の多様性を尊重する重要性と具体的な実践例」、<https://bizx.chatwork.com/diversity/education/>



◀ Web 版はこちらへ

# インフォメーション

## 研究大会情報

### ●第60回 全国小学校家庭科教育研究会 全国大会

日時 令和5年10月27日(金)

会場 公開授業 横浜市立東小学校／横浜市立桜岡小学校

全体会 テンネー記念ホール(関東学院大学 横浜・関内キャンパス 2階)

### ●令和5年度 全日本中学校技術・家庭科研究会 全国大会 / 各地区大会

地区名	都道府県名	開催日	会場
北海道	(道南)	<b>全体会・分科会</b> 10月13日(金)	<b>全体会</b> 函館白百合学園中学高等学校 <b>分科会</b> 2会場2分科会
東北	秋田県	<b>全体会・分科会</b> 10月27日(金)	<b>全体会</b> 湯沢市文化会館 <b>分科会</b> 2会場7分科会
関東・甲信越	群馬県	<b>全体会・分科会</b> 11月2日(木)	<b>全体会</b> 高崎市立寺尾中学校 <b>分科会</b> 8会場8分科会
東海・北陸 <b>全国大会</b>	静岡県	<b>全体会</b> 11月9日(木) <b>分科会</b> 11月10日(金)	<b>全体会</b> プラサヴェルデ <b>分科会</b> 8会場8分科会
近畿	大阪府	<b>全体会・分科会</b> 11月22日(水)	<b>全体会</b> 豊中市立文化芸術センター <b>分科会</b> 4会場6分科会
中国・四国	島根県	<b>全体会</b> 10月19日(木) <b>分科会</b> 10月20日(金)	<b>全体会</b> 島根県民会館 <b>分科会</b> 4会場8分科会
九州	熊本県	<b>全体会</b> 11月17日(金) <b>分科会</b> 11月16日(木)	<b>全体会</b> 熊本ホテルキャッスル <b>分科会</b> 4会場4分科会

## 商品案内

好評  
発売中

新版

## 省エネ行動スタートBOOK

■監修 松葉口玲子／三神彩子 ■定価：1,760円(本体1,600円)

■A4判 80ページ オールカラー

- 世界的なエネルギー価格の高騰や、「気候危機」が喫緊の課題となる今、各種統計資料をアップデートして、『省エネ行動スタートBOOK』をリニューアルしました。
- SDGsの学びに役立つ17のワークシートには指導案がつき、さらにアクティブ・ラーニングのポイントが示されています。



## KGKジャーナル

Vol.58-3 (通巻412号)

非売品

令和5年7月10日印刷 令和5年7月20日発行 編集兼発行人 岩塚 太郎  
発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1  
☎(03) 5684-6121 (営業)、5684-6118 (販売)、5684-6116 (編集)  
<https://www.kairyudo.co.jp/>



## 開隆堂出版株式会社

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03(5684)6111

北海道支社 〒060-0042 札幌市中央区大通西11-4-21 52山京ビル7階  
東北支社 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10 仙台TBビル4階  
名古屋支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-15-18 オフィスサンナゴヤ9階  
大阪支社 〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16  
九州支社 〒810-0075 福岡市中央区港2-1-5 FYCビル3階

☎011(231)0403  
☎022(742)1213  
☎052(908)5190  
☎06(6531)5782  
☎092(733)0174